

令和 7 年度市民意識調査の結果概要

市では、市の現状やまちづくりの取り組み・市民の市政に関する満足度、市民が重要と感じている施策や課題などの市民意識から政策的課題を把握し、市民ニーズを市政に反映するために「市民意識調査」を毎年実施しています。

本号では、令和 7 年度に実施した調査の結果概要をお知らせします。

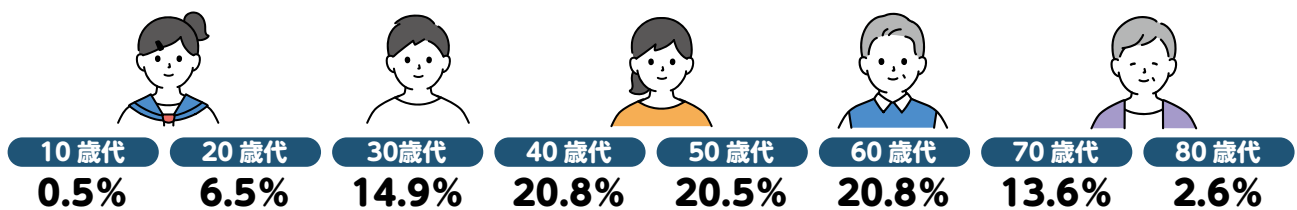
- 時期 令和 7 年 7 月
- 対象 満 18 歳以上の市民
- 方法 インターネット回答（一部紙での回答）
- 回答数 664 件

「令和 7 年度市民意識調査」
報告書の詳細は、市公式ホームページで紹介しています▶

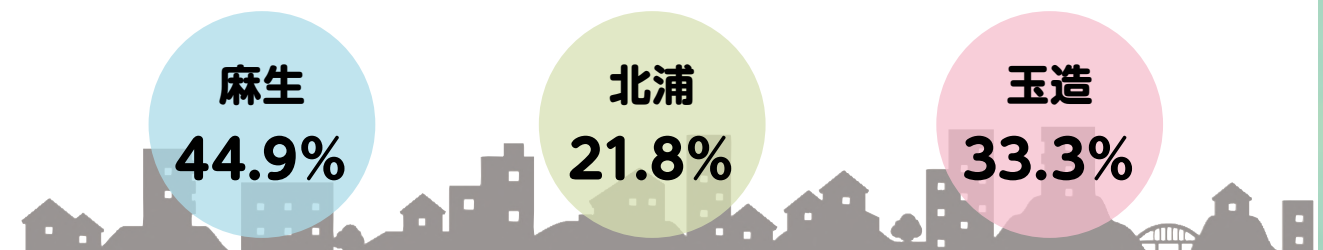


※集計結果の％は、小数点第 2 位を四捨五入し第 1 位までの表記としているため、合計が 100％ではない場合があります。

回答者年齢構成

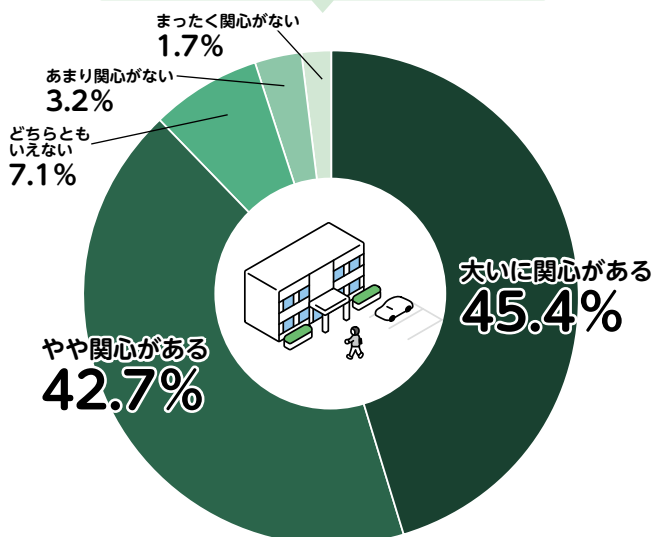


回答者地区割合

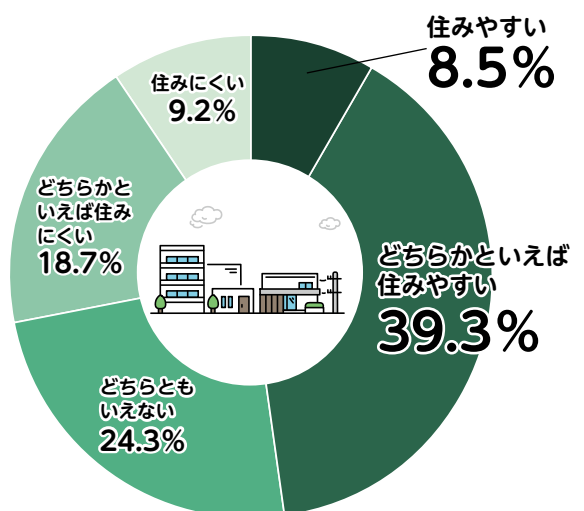


行政への関心と市の住み心地

Q 市政に関心はありますか？



Q 行方市の住み心地は？



関心度



- ・大いに関心がある
- ・やや関心がある

88.1%

前年度から
9.9% 増加
しました。
※前年度 78.2%

長年住みなれて
おり、愛着がある



31.3%

自然環境が良い



24.7%

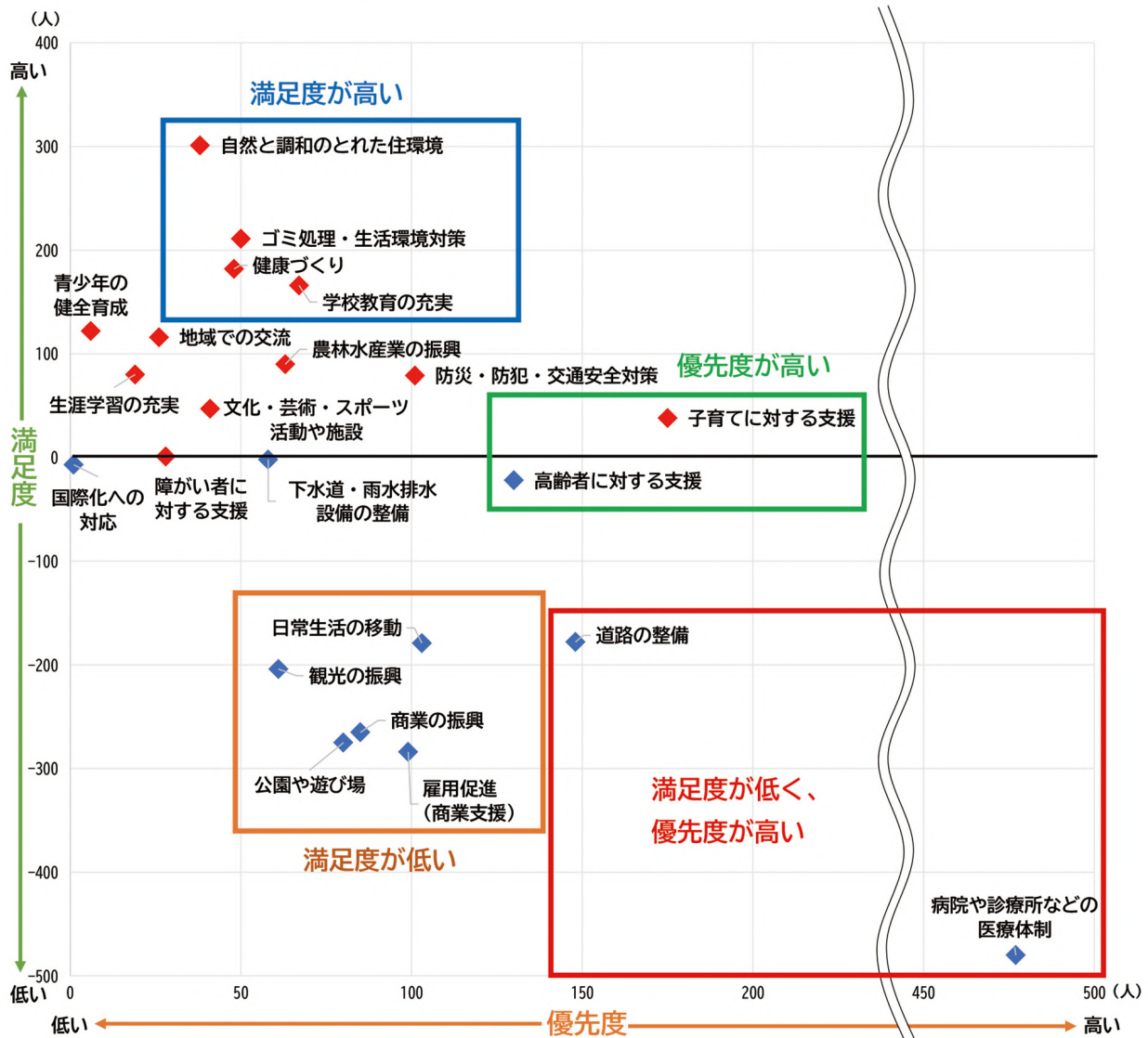
家族、親戚が近く
にいる



14.2%

市民の声で見る、まちづくりの“満足度”と“課題”

■ “満足度（縦軸）”と“優先度（横軸）”の分布



満足度：各項目について「満足」「どちらかという満足」の合計回答人数から「不満」「どちらかという不満」の合計回答人数を差し引いたもの

◆：満足な人数が不満な人数を上回る ◆：満足な人数が不満な人数を下回る

優先度：当該項目を選択した人数（3つまで選択）

自由記述による意見（要旨抜粋）

災害が少ない

人口減少が進んでいて不安

東京に近い

車が運転できないと不便

渋滞がなく、移動しやすい

騒音が気になる

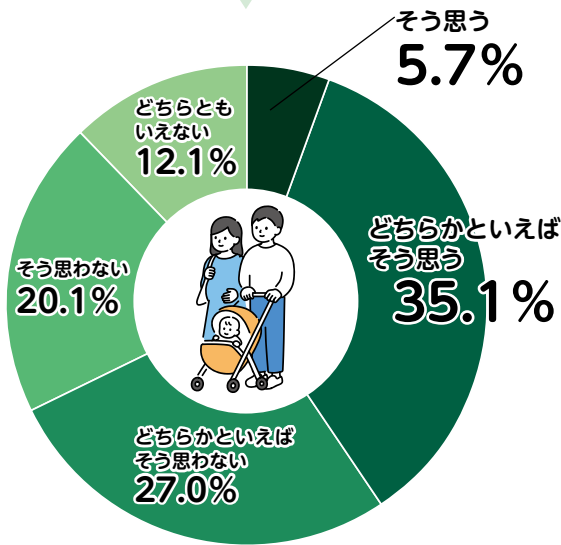
混雑によるストレスがない

バスや飛行機で日本各地に行きやすい

急病の場合、搬送までに時間がかかるため不安

子育て

Q 行方市は安心して子どもを産み育てられる環境は整っていると思いますか？



Q 安心して結婚・妊娠・子育てをするために、最も重要なものを選んでください。



雇用の確保による経済的な安定

32.2%

安心して妊婦、子どもが受診できる病院、診療所



25.3%

行政の支援
(金銭・相談・サポートなど)



18.7%

(上位3項目)

子育て支援は、重要度が高い分野の中でも一定の満足度を示しています。一方で、結婚や妊娠も含めた安心できる環境を整えるためには、分野別で満足度が低い「雇用」と「病院、診療所」の課題解決も重要となります。

関連する市の取り組み事業の例

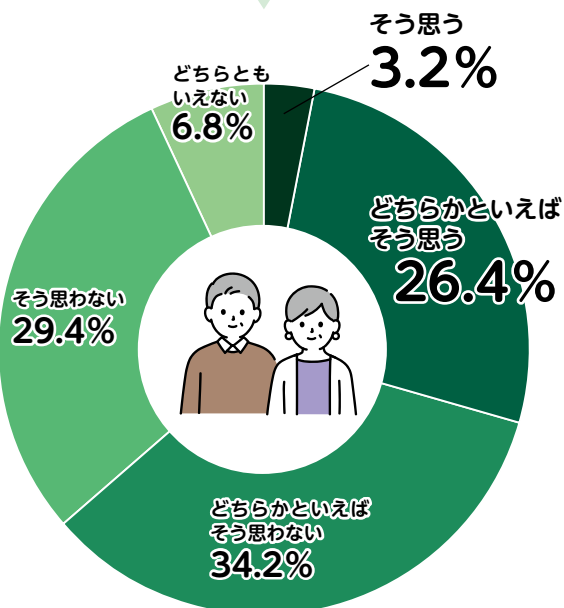
- ・不妊治療等補助
- ・誕生祝金
- ・子育てニコニコ支援金
- ・妊婦のための支援給付
- ・産後ケア費用
- ・保育料の無償化 など



事業の詳細はこちら
市報行方 6月号
p4～p5 参照

高齢者

Q 行方市は高齢者が安心して住み続けられる環境が整っていると思いますか？



Q 高齢者が安心して住み続けられるための取り組みとして、最も重要なものを選んでください。



送迎・買い物など日常生活支援

25.1%

医療体制の充実



23.6%

地域で高齢者を支える仕組み



10.7%

(上位3項目)

高齢者対策としては、「送迎・買い物など日常生活支援」と「医療体制の充実」が共に特に高く、重要であるとの意見が多くありました。日常生活での移動支援や、安心して通院できる環境づくりが求められます。

関連する市の取り組み事業の例

- ・ごみ出し支援事業
- ・買い物支援事業
- ・愛の定期便事業
- ・移動スーパー、移動市役所事業 など



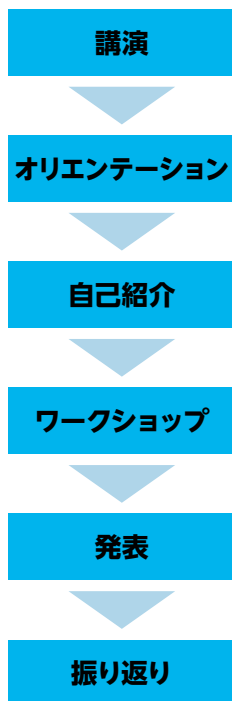
事業の詳細はこちら
市報行方 9月号
p8～p9 参照

まちづくりワークショップを開催



市では、総合計画および総合戦略の策定を現在進めています。市民の皆さんの声を計画に反映するため、今回の市民意識調査のほかに、本市に関わりのある高校生を対象とした「未来のまちづくりを考えるワークショップ」を11月1日（土）に、市立図書館で開催しました。当日は、茨城大学の西野由希子教授や大学生5人に運営のご協力をいただきました。当日のワークショップの様子をレポートします。

ワークショップの流れ



西野教授を講師に迎えて「みんなで考える未来のまちづくり」をテーマに講演していただきました。



茨城大学 人文社会科学部
西野 由希子 教授

テーマ

- ①若い人が外のまちに移り住む理由を考えよう！
 - ②若い人が残る、または戻ってくるための魅力や工夫を考えよう！
 - ③ずっと住み続けたいと思えるまちを考えよう！
- 3つのワークについて、思いついたことを付箋に書き、模造紙に貼り付けていきました。



出されたアイデア

- ・空き家を利用した勉強場所やフリースペースづくり
- ・ゴルフ場など広い空間を使った音楽イベントの開催 など

ワーク後に、それぞれの班で出た意見を発表し、意見を共有しました。
各班の発表後に、西野教授から本日の振り返りとして講評をいただきました。



参加者の声 ※要旨抜粋



自分だけの考えでは思いつかなかった未来づくり計画を共有できて、地域に対する向き合い方の視野が広がった。



自分の観点とは違う意見を聞くことができて、とても楽しかった。さまざまな世代の人が住みやすく、自然豊かなまちにしていきたい。



若い人が「行方に帰りたい」と思えるようなまちになってほしい。そのためには、働く場所や遊べる環境などを整えることが大切だと思う。